

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-5600



簡易接続・操作ガイド





本書の記載について

本書では、テレビとBD/DVDレコーダーを接続し、再生を楽しむまでの手順を案内します。詳しい内容については取扱説明書をご覧ください。

ご使用前に「安全上のご注意」(取扱説明書 109～113 ページ)を必ずお読みください。

外部機器の機能や設定、操作については、ご使用の外部機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

-  では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
-  では、使用上の注意点や機能上の制約を記載しています。

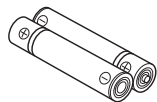
付属品を確認する

ご使用になる前に、付属品がすべてそろっていることを確認してください。

リモコン



単 4 乾電池 (2 本)



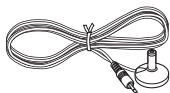
光ファイバーケーブル (1.5m)



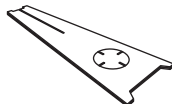
電源コード (2m)



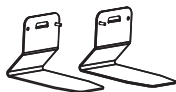
インテリビームマイク (6m)



簡易マイクスタンド



転倒防止スタンド (2 個)



ネジ (転倒防止スタンド用: 2 個)



取扱説明書



簡易接続・操作ガイド (本書)



MusicCast セットアップガイド



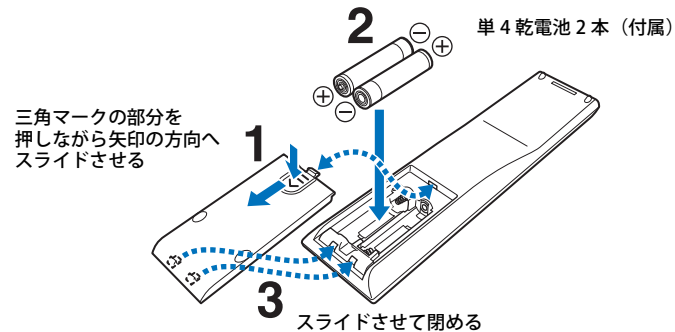
その他接続に必要なもの

- ・ テレビ
- ・ BD / DVD レコーダー
- ・ HDMI ケーブル (2 本)

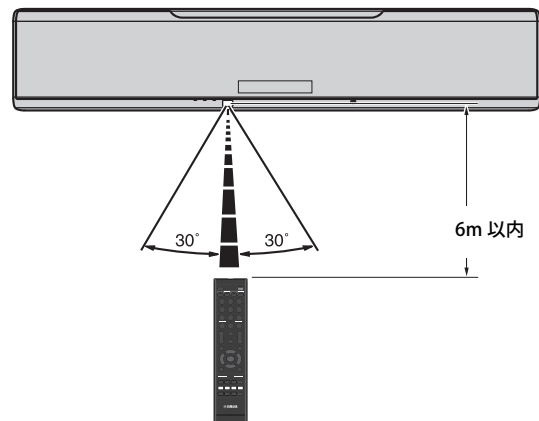
リモコンを準備する

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」(取扱説明書 110 ~ 111 ページ) および「リモコン」(取扱説明書 112 ページ) をよくお読みください。

電池を入れる



操作範囲



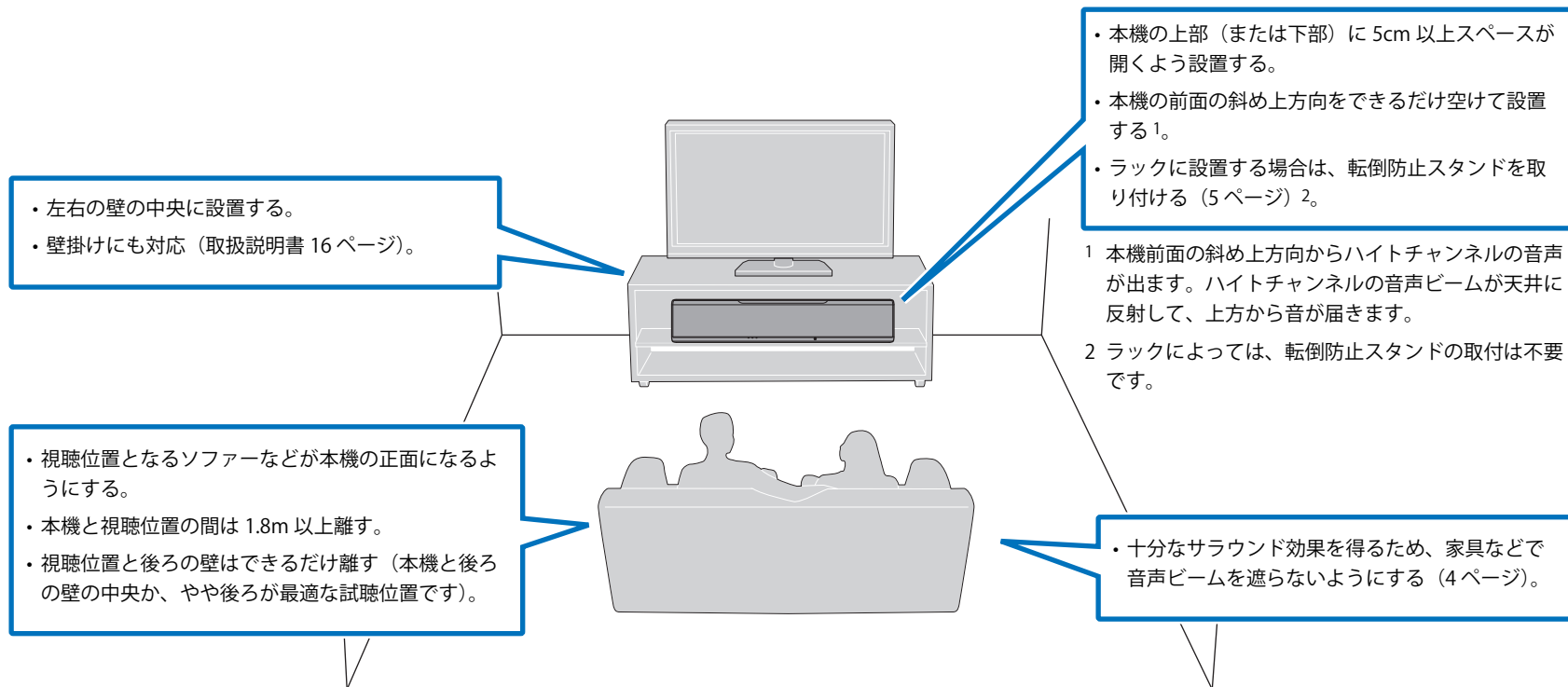
1 YSP-5600 を設置しましょう

本機は音声ビームを壁や天井に反射させてサラウンド効果を生み出します。十分なサラウンド効果を得るためには、本機と視聴位置、およびリスニングルームの壁や天井との位置関係が重要です。3～5ページを参考にして設置してください。また、背面のスペースが狭いラックなど、設置する場所によっては、先に外部機器と接続してから設置するほうが簡単な場合があります。外部機器との接続については、6ページをご覧ください。

ご注意

- 地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように安定した広い台の上に設置してください。
- 本機の上部にはアンテナが内蔵されています。金属製のラックには設置しないでください。また、本機の上に金属製品を置かないでください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。ハードディスクドライブなどを近くに設置しないでください。
- 本機を他の再生機器などと直接重ねないでください。熱や振動により機器が故障することがあります。

おすすめの設置方法



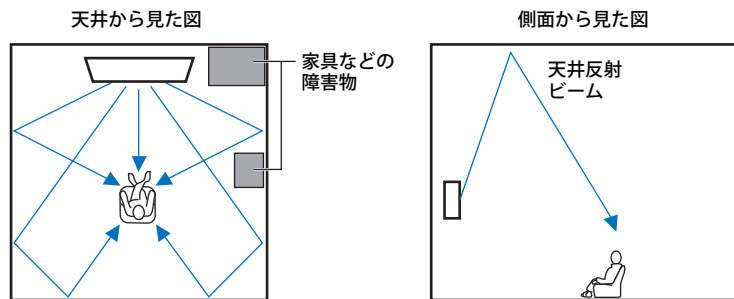
■ 設置位置の例

本機は下図のように音声をビーム化して出力します。十分なサラウンド効果を得るために、下図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右どちらかの壁に近づきすぎないようにしてください。本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が $40^{\circ} \sim 50^{\circ}$ の間におさまるように設置してください。



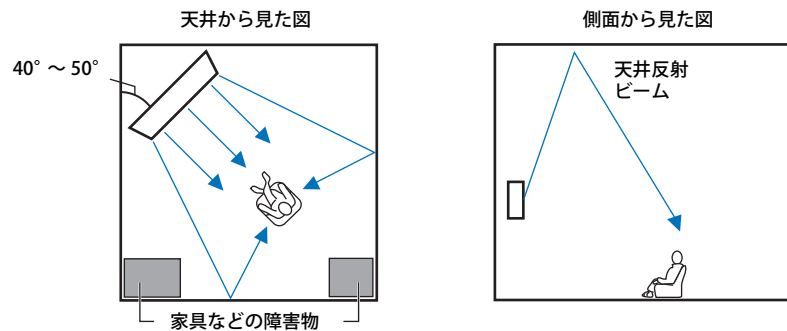
・ 本機を左右の壁の中央やコーナー以外に設置する場合の例については、取扱説明書 13 ～ 15 ページをご覧ください。

本機を壁と並行に設置する場合



出力されるビームは 3D サラウンド / サラウンド (取扱説明書 36、37 ページ) とチャンネル出力 (取扱説明書 72 ページ) の設定により異なります。上の図は 3D サラウンドに設定し、フロントチャンネルの出力を「ビーム」に設定した場合のビーム経路です。

本機を部屋のコーナーに設置する場合



上の図は 3D サラウンドに設定し (取扱説明書 36 ページ)、フロントチャンネルの出力 (取扱説明書 72 ページ) を「ステレオ」に設定した場合のビーム経路です。

推奨できない視聴環境

本機は音声ビームを壁や天井に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

- ・ ビーム経路上に壁がない部屋
- ・ 壁や天井の材質が吸音素材でできている部屋
- ・ 部屋の大きさが幅 3m～7m、奥行き 3m～7m、高さ 2m～3.5m にあてはまらない部屋
- ・ ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋
- ・ 本機から視聴位置までの距離が 1.8m 未満の場合
- ・ 壁に近いところに視聴位置がある場合
- ・ 視聴位置が本機の正面にない場合
- ・ 天井が傾斜しているなど、複雑な形状の部屋（照明器具などは音声ビームの障害にはなりません）

部屋の条件を問わずにサラウンドを楽しむ（マイサラウンド機能）

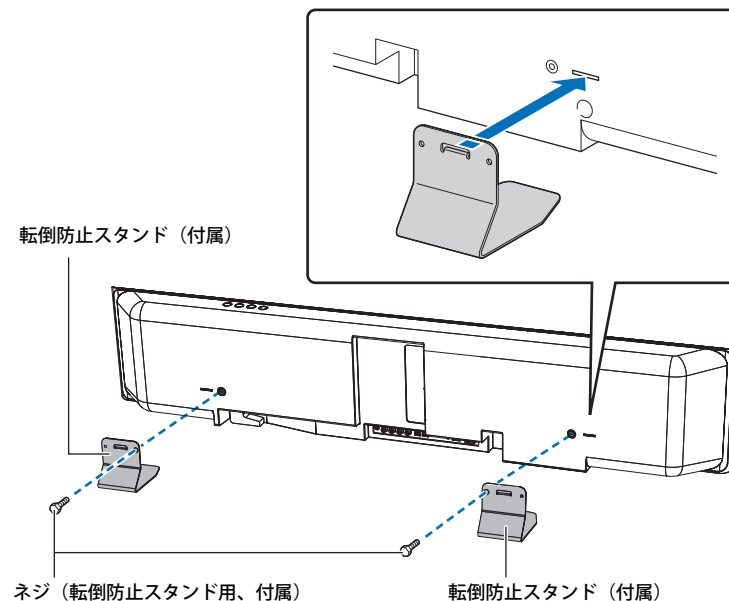
「推奨できない視聴環境」でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「チャンネル出力」（取扱説明書 72 ページ）をご覧ください。



- ・ 設置した位置に合わせて本機のサラウンド効果を自動設定（インテリビーム）することで、最適なサウンドをお楽しみいただけます（10 ページ）。

転倒防止スタンドを取り付ける

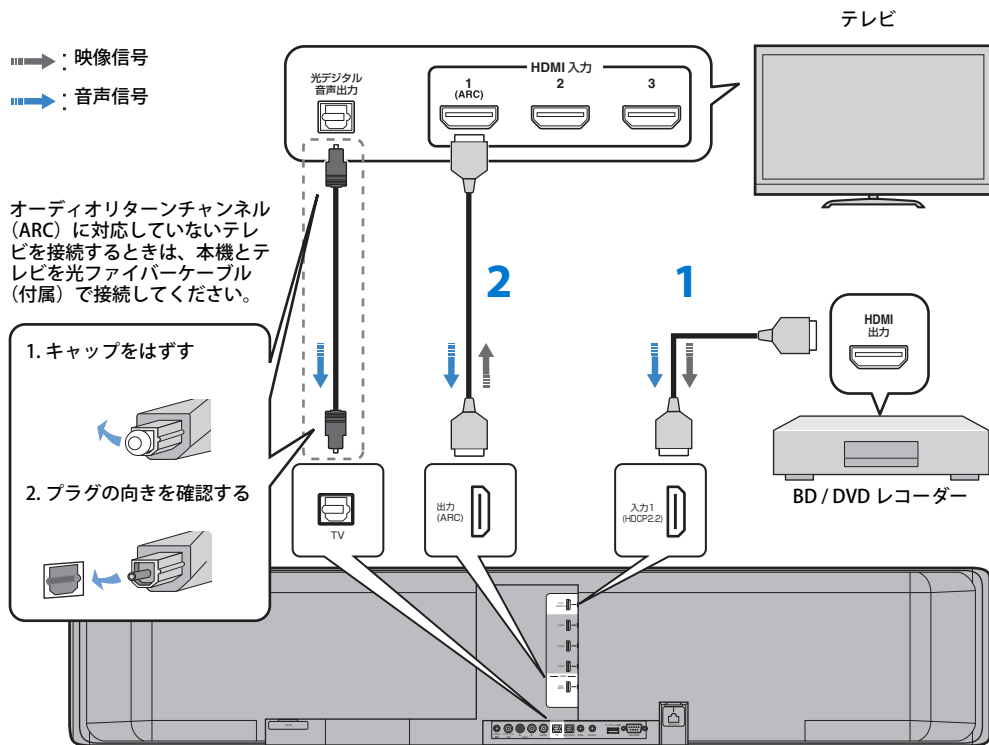
転倒防止スタンド（付属）を本体底面に取り付けます。図のように転倒防止スタンドの突起部を本体背面の穴に合わせてはめ込み、付属のネジで取り付けてください。なお、別売の壁掛け金具（SPM-K30）に本機を設置する場合、転倒防止スタンドの取付は不要です。



2 YSP-5600 を接続しましょう

テレビ、BD/DVD レコーダーを接続する

ケーブルの接続は以下の順番で行ってください。ゲーム機など、他の再生機器を接続する場合は取扱説明書 22～23 ページをご覧ください。



1 HDMI ケーブル (別売)

BD/DVD レコーダーのデジタル映像・音声を本機に入力します。



- 本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。HDCP2.2 に対応した機器を接続する場合は、「HDMI 入力 1」端子に接続してください。

2 HDMI ケーブル (別売)

BD/DVD レコーダーのデジタル映像をテレビに映します。



- 4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応テレビの HDMI 入力端子 (HDCP2.2 対応の端子) に接続してください。



オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビの場合

- HDMI ケーブルはテレビのオーディオリターンチャンネル対応端子 (「ARC」などの表示のある端子) に接続してください。
- オーディオリターンチャンネル (ARC) を有効にするには、本機の HDMI コントロール機能をオンにしてください (取扱説明書 76 ページ)。

オーディオリターンチャンネル (ARC) とは？

- 通常、テレビの音声を本機で再生するには、HDMI ケーブルとは別に音声ケーブルの接続が必要になります。しかし、テレビが ARC に対応している場合は、本機からテレビに映像を伝送する HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

本機を有線でルーターに接続する場合は、ネットワークケーブルを本機のネットワーク端子に接続します。詳しくは、取扱説明書 50 ページをご覧ください。

サブウーファーを接続する

本機にサブウーファーを接続して使用することができます。市販のモノラルピンケーブルで接続する方法と、別売のワイヤレスサブウーファーキット (SWK-W16) を使って無線で接続する方法があります。



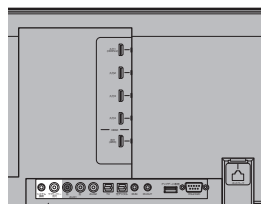
・詳しくは、取扱説明書 24 ページをご覧ください。

ケーブルで接続する

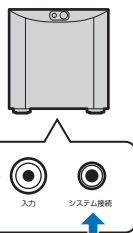
市販のモノラルピンケーブルで、サブウーファーのモノラル入力端子と本機のサブウーファー出力端子を接続してください。

ヤマハ製サブウーファーをシステム接続すると、本機の電源と連動してサブウーファーの電源をオン/オフできます。

本機 (背面)



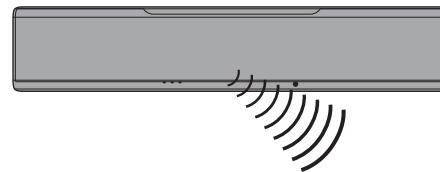
サブウーファー



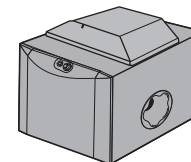
・サブウーファーをケーブルで接続して使用する場合は、設定メニューでサブウーファーの出力を「有線」に設定してください (取扱説明書 73 ページ)。

ワイヤレスサブウーファーキット (SWK-W16) を使う

別売のワイヤレスサブウーファーキット (SWK-W16) を使うと、サブウーファーと本機をケーブルを使わずに接続できます。



SWK-W16



サブウーファー

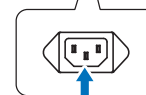
電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源コードを本機に接続し、プラグをコンセントに差し込みます。



・アース接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

本機 (背面)



AC100V コンセントへ



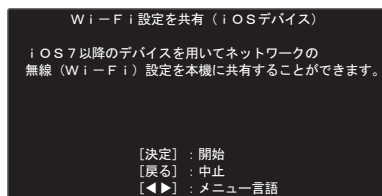
アース線



本機の電源をオンにする

1 電源 (⏻) キーを押す。

ご購入後はじめて本機の電源をオンにすると、以下の画面がテレビに表示されます（前面ディスプレイには「ViewScreen」と表示されます）。



- 画面が表示されないときは、テレビのリモコンの入力切換ボタンで本機からの映像に切り替えてください。本機とテレビを6ページのように接続した場合は、テレビのリモコンの入力切換ボタンで「HDMI入力1」を選びます。

お使いのiOSデバイス（iPhoneなど）のネットワーク設定を本機に適用して無線ネットワークに接続できます。「無線ネットワークに接続する」にしたがって操作してください。

この機能を使わない場合は戻る (↶) キーを押し、「[3] サラウンド効果を自動設定しましょう (インテリビーム)」に進んでください。

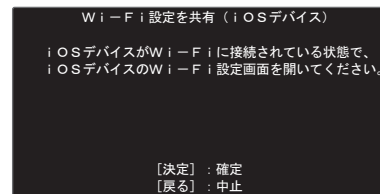


- 本機のネットワーク端子とルーターを接続している場合（有線ネットワーク接続）、この画面は表示されません。
- 「Wi-Fi 設定を共有 (iOSデバイス)」以外の無線ネットワークへの接続方法や、有線 / 無線ネットワークの詳細については、取扱説明書 49 ページをご覧ください。

無線ネットワークに接続する

1 決定キーを押す。

以下の画面が表示されます。



- iOS 7.1 以降を搭載したiOSデバイスが必要です。
- お使いのiOSデバイスが無線LANルーター（アクセスポイント）に接続されていることを確認してください。

2 決定キーを押す。

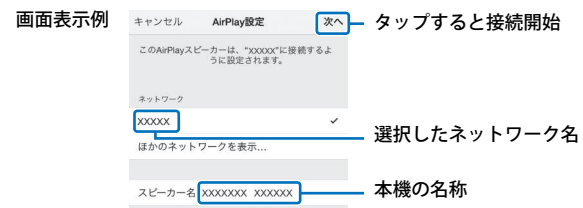
3 iOSデバイスのWi-Fi設定画面を開き、「新しいAIRPLAYスピーカーを設定...」から本機を選ぶ。



本機の名称

4 本機を接続するネットワーク（アクセスポイント）を選ぶ。

選択したアクセスポイントの設定が本機に適用されます。



- 設定メニューの「Wi-Fi 設定を共有 (iOS デバイス)」を使っていつでも接続できますが、すでにほかの無線ネットワークや Bluetooth 対応機器が設定されている場合は初期化されますのでご注意ください。

③ サラウンド効果を自動設定しましょう（インテリビーム）

本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に「インテリビーム」機能を使って、各チャンネルを調節してください。

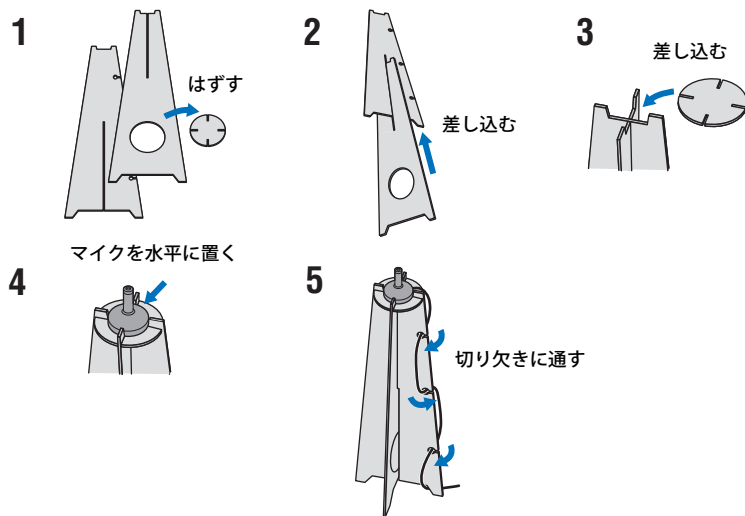


- 部屋の環境が「推奨できない視聴環境」（5ページ）にあてはまる場合は、測定が正しくできないことがあります。このような部屋でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「チャンネル出力」（取扱説明書 72 ページ）をご覧ください。
- インテリビームマイクは、延長ケーブルを使って接続しないでください。測定が正しくできないことがあります。

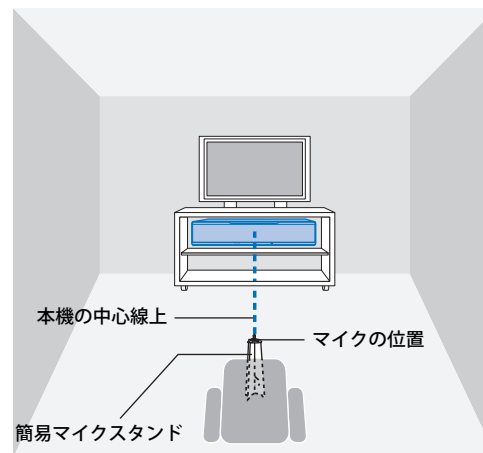
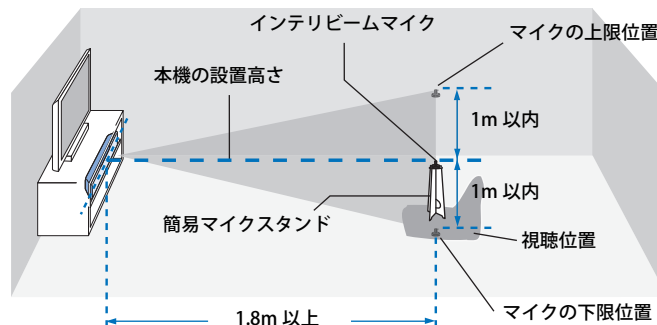
インテリビームマイクを設置する

1 インテリビームマイクを視聴位置に設置する。

□ 簡易マイクスタンドの組立て方法



- 簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、マイクをできるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
- マイクは床と水平になるように置いてください。



ソファの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

測定する



- 測定中は大きなテスト音が出されます。自動設定は、小さなお子様がいなくて、部屋に入ってくる可能性がないときに行ってください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっている部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのような部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
 - ① カーテンやブラインドを開ける
 - ② 「ビーム調整」をする（取扱説明書 31 ページ）
 - ③ カーテンやブラインドを閉める
 - ④ 「音質調整」をする（取扱説明書 31 ページ）
- エアコンなど動作音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

1 本機とテレビの電源をオンにする。



- サブウーファーを接続している場合は電源をオンにして、音量とクロスオーバーを以下のように設定してください。

音量：約半分

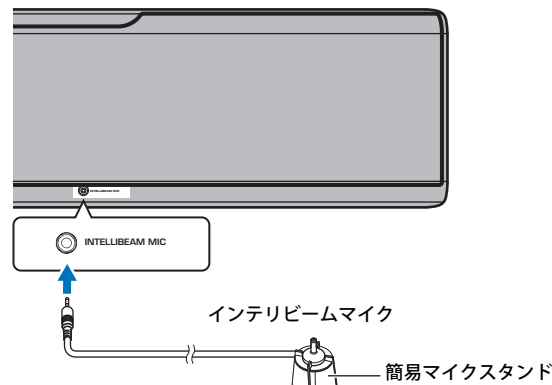


クロスオーバー：周波数を最大

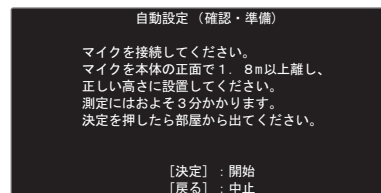


2 テレビの入力を本機からの映像に切り替える（取扱説明書 26 ページ）。

3 インテリビームマイクを本機のインテリビームマイク端子に接続する。



インテリビームマイクを接続すると、以下の画面になります。



次の 2 つの設定を自動的に調節します。

ビーム調整	部屋の形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節します。
音質調整	部屋の音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節します。

設定メニューから「ビーム調整」と「音質調整」を個別に測定することもできます（取扱説明書 31 ページ）。



- 次の手順を実行したあと、部屋から出てください。部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、測定が正しくできないことがあります。

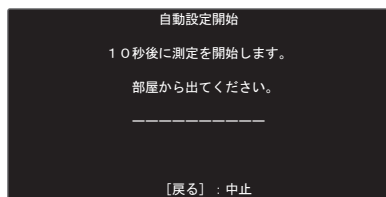


システム
メモリー

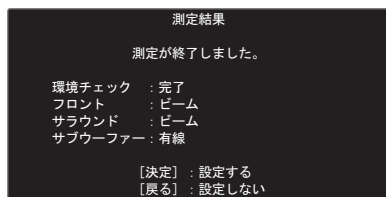
決定

戻る (↶)

4 決定キーを押して測定を開始し、10秒以内に部屋の外に出る。



(約3分後) 測定中の項目にしたがって、画面が自動的に切り替わります。



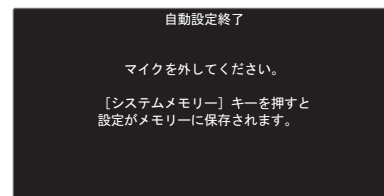
測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力されます。



- 測定開始から終了まで、約3分かかります。
- 測定中に「自動設定」を中止するとき、または測定結果を設定しないときは、戻る (↶) キーを押してください。
- エラー音（ブザー音）が鳴ったときは、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージが表示されたら」（取扱説明書 32 ページ）をご覧ください。

5 決定キーを押す。

測定結果を本機に設定し、保存します。



- システムメモリー 1、2 または 3 キーを押して、複数の測定結果を保存することもできます。システムメモリー 1 キーを押したときは、「M1 Saving」と表示され、設定が保存されます。
- 測定中に環境ノイズを拾った場合は、「自動設定終了」画面に再設定をおすすめするメッセージが表示されます。決定キーを押して終了し、もう一度自動設定を行ってください。

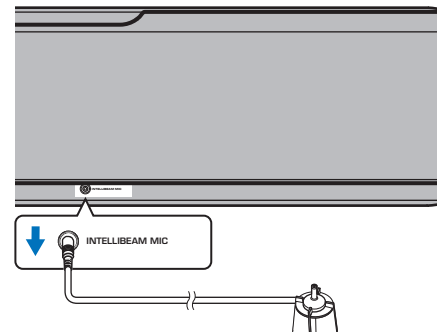


システムメモリー機能については、取扱説明書 43 ページをご覧ください。

6 マイクをはずす。

「自動設定終了」画面が消えます。

インテリビームマイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。





4 再生しましょう

テレビを視聴する

- 1 テレビのリモコンで放送局を選ぶ。
- 2 TV キーを押す。



- テレビから音が出ている場合は、テレビの音声出力先の設定をテレビ以外（本機への出力）に設定してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビと本機を連動させる
HDMIコントロール（リンク）機能に対応したテレビを使用している場合、テレビのリモコンで本機を操作することができます。設定については取扱説明書 33 ページをご覧ください。

BD/DVD を再生する

ここでは、「テレビ、BD/DVD レコーダーを接続する」（6 ページ）のように接続した場合を例にとり、再生のしかたを説明します。

- 1 BD/DVD レコーダーの電源をオンにする。
- 2 HDMI1 キーを押して BD/DVD レコーダーを選ぶ。



- 3 テレビの入力をテレビのリモコンで「HDMI 入力 1」に切り替える。
- 4 ブルーレイディスクや DVD を再生する。
- 5 音量（+/-）キーを押して、音量を調節する。
- 6 3D サラウンドキー、サラウンドモードキー、ステレオキー、ターゲットキーなどを押して、お好みのサウンドに設定する（取扱説明書 36 ページ）。



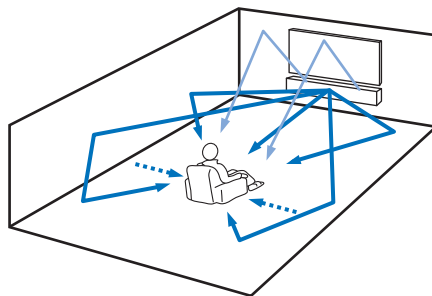
再生できない場合は

- 本機と BD/DVD レコーダーの接続を確認してください。
- BD/DVD レコーダーの音声出力設定がデジタル音声出力（ビットストリーム）に設定されているか確認してください。
- テレビ側の入力为本機からの入力になっているか、確認してください。



3D サラウンドで再生する

水平方向のサラウンド再生で使用する5チャンネルの音声ビームに加えて、上方に2本の音声ビームを出力し（ハイチャンネル）、天井に反射させることで上方から音を届けます。水平方向だけのサラウンド再生に比べて、圧倒的な包囲感と臨場感のある音場（音による空間の表現）をつくり出します。



- ← 水平方向のビーム
- ← ハイチャンネルのビーム
- ← フロントと後方の音声ビームからつくり出されるチャンネル

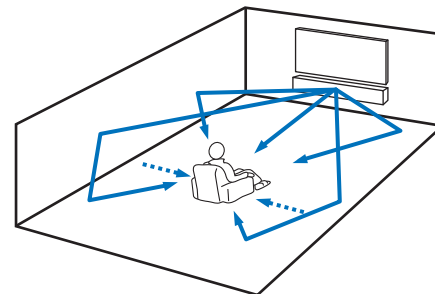
- 1 3D サラウンドキーを押して、3D サラウンド再生に切り替える。

前面ディスプレイに「3D SUR.」と表示されます。

3D SUR.

サラウンドで再生する

ハイチャンネルのビームは使わず、5チャンネルの音声ビームでサラウンドの音場空間をつくり出します。



- ← 水平方向のビーム
- ← フロントと後方の音声ビームからつくり出されるチャンネル

- 1 サラウンドキーを押して、サラウンド再生に切り替える。

前面ディスプレイに「SURROUND」と表示されます。

SURROUND



立体的なサラウンド音声を楽しむ (シネマ DSP 3D / シネマ DSP)

再生する音源やお好みに合わせてシネマ DSP プログラムを選んでください。ヤマハ独自の音場創生技術（シネマ DSP 3D / シネマ DSP）を用いて、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。

3D サラウンド再生時はシネマ DSP 3D、サラウンド再生時はシネマ DSP を使用して、音場を再現します。選択可能なプログラムはシネマ DSP 3D、シネマ DSP とともに同じです。

1 3D サラウンドまたはサラウンドキーを押して、3D サラウンドまたはサラウンド再生に切り替える。

2 シネマ DSP キー（映画、音楽またはエンタテインメント）を繰り返し押してプログラムを選ぶ。

選択したプログラムが前面ディスプレイに表示されます。



- ・シネマ DSP を使わずにサラウンド再生する場合は、切キーを押します。
- ・詳しくは、取扱説明書 37 ページをご覧ください。



MusicCast CONTROLLER

モバイル端末専用の無料アプリ「MusicCast CONTROLLER」で、スマートフォンなどのモバイル端末やサーバーの音楽、またはインターネットラジオなどを本機で楽しむことができます。

また、ホームネットワークに接続された他の MusicCast 機器に配信し、同時に再生できます。

詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

アプリについては、Apple Store または Google Play で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。



HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)

モバイル端末専用の無料アプリ「HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)」を使うと、ビジュアルな画面で音声ビームを簡単に設定したり、モバイル端末で入力ソースの選択や音量の調節などができます。

アプリについては、Apple Store または Google Play で「HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)」を検索してください。

本機はほかにも多くの機能を搭載しています。詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

